

海外経済

		12月	1月
世界経済		<p>世界の景気は、引き続き弱い回復にとどまっている。 先行きについては、当面、弱い回復が続くものの、各種政策の効果が次第に発現することが期待される。ただし、欧州政府債務危機やアメリカの「<u>財政の崖</u>」の影響等により、景気が下振れするリスクがある。</p>	<p>世界の景気は、弱い回復が続いているものの、底堅さもみられる。 先行きについては、当面、弱い回復が続くものの、<u>次第に底堅さを増すことが期待される</u>。ただし、欧州政府債務危機やアメリカにおける財政問題等により、景気が下振れするリスクがある。</p>
アメリカ		<p>アメリカでは、景気は弱めの回復テンポが続いているが、このところ底堅さもみられる。 先行きについては、緩やかな回復傾向で推移すると見込まれる。ただし、いわゆる「<u>財政の崖</u>」を含む財政緊縮の影響や雇用環境の改善の遅れ等により、景気が下振れするリスクがある。</p>	<p>アメリカでは、景気は緩やかな回復傾向となっている。 先行きについては、<u>当面、財政緊縮の影響が懸念されるものの、緩やかな回復傾向で推移すると見込まれる</u>。ただし、<u>財政問題への対応や雇用情勢等の推移いかん</u>により、景気が下振れするリスクがある。</p>
アジア地域	中国	<p>中国では、景気の拡大テンポがやや鈍化しているものの、このところ安定化の兆しもみられる。 先行きについては、不確実性が高いものの、各種政策効果もあり、緩やかな拡大傾向となることが見込まれる。ただし、輸出や不動産価格の動向に留意する必要がある。</p>	<p>中国では、景気の拡大テンポはやや持ち直している。 先行きについては、依然不確実性が残るものの、各種政策効果もあり、緩やかな拡大傾向となることが見込まれる。ただし、輸出や不動産価格の動向に留意する必要がある。</p>
	韓国、台湾 (その他アジア地域(12月))	<p>その他アジア地域では、景気は総じて足踏み状態となっているものの、このところ一部に持ち直しの動きもみられる。 先行きについては、<u>当面、足踏み状態が続くと見込まれる</u>。また、<u>輸出の動向に留意する必要がある</u>。</p>	<p>韓国では、景気は足踏み状態となっているものの、このところ一部に持ち直しの動きもみられる。台湾では、景気はこのところ<u>持ち直しの動きがみられる</u>。 韓国、台湾の先行きについては、<u>持ち直しの動きが続くと見込まれる</u>。また、<u>輸出の動向に留意する必要がある</u>。</p>
	インド	<p>インドでは、景気の拡大テンポは弱まっている。 先行きについては、当面、低めの成長となることが見込まれる。また、物価上昇によるリスクに留意する必要がある。</p>	(変更なし)
ヨーロッパ地域		<p>ヨーロッパ地域では、景気は弱含んでいる。ドイツでは<u>緩やかな持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱い動きもみられる</u>。 先行きについては、当面、弱い動きとなることが見込まれる。また、一部の国々における財政の先行きに対する根強い不安を背景とした金融面への影響により、景気が低迷するリスクがある。さらに、各国の財政緊縮による影響や、高い失業率が継続すること等に留意する必要がある。</p>	<p>ヨーロッパ地域では、景気は弱含んでいる。ドイツでは、このところ<u>足踏み状態となっている</u>。 先行きについては、当面、弱い動きとなることが見込まれる。また、一部の国々における財政の先行きに対する根強い不安を背景とした金融面への影響により、景気が低迷するリスクがある。さらに、各国の財政緊縮による影響や、高い失業率が継続すること等に留意する必要がある。</p>